

アルツハイマー病の 新しい治療薬はどんな薬？

この病気は毒性のあるアミロイド蛋白が脳に溜まって起きると考えられています。新薬はこのアミロイド蛋白を免疫の力で取り除くものです。商品名はレケンビ®(エーザイ)です。病気の早期(軽度認知障害ないし軽度認知症)に用いると、病気の進行を少し遅らせる効果があります(18ヶ月の投与で約6ヶ月進行を遅らせる)。しかし症状を改善したり、進行を止めるものではありません。薬は2週毎に点滴投与し18ヶ月にわたり通院が必要です。

Q1 事前にどのような検査が必要ですか？

もの忘れ外来の通常の検査、例えば経過や問題点を尋ねる問診、血液検査、神経心理検査、脳のMRI、脳血流シンチなどがあります。ここでアルツハイマー病ないし同じ病態によるものと診断されることがまず必要です。新薬はアミロイドを除去するものから、脳内のアミロイド蓄積を証明するアミロイドPET検査(或いは髄液検査)を行います。

Q2 どんな副作用があるのでしょうか？

1つ目は点滴注入に伴う反応で、発熱、悪寒、頭痛、紅潮、

嘔気、腹部不快感、血圧上昇中等です。4人に1人以上に起こりますが、ほとんどが第2回目の点滴までに起こります。2つ目は脳の中にむくみや小さな出血が5人に1人以上に起こります。多くは無症候ですが、頭痛、混乱、視覚異常、めまい、嘔気、歩行障害、重症例では全身けいれん発作、脳症など、稀に後遺症も生じます。2つ目の副作用については治療開始6ヶ月までに起きやすいため、その間にMRI検査を数回行います。また起こしやすい体質の方がいるため、当院では予め体質を調べる検査を行っています。また出血を助長する血液を固まりにくくする薬を用いている場合は

注意が必要です。いずれにしても治療前には患者さん・ご家族との慎重な話し合いが大切です。

Q3 今までの薬と違う点は？

新薬は病気の原因になっているアミロイド自体を取り除くという意味で画期的な薬です。従来薬は脳内の神経細胞同士の間を良くするもの、神経細胞を異常なカルシウム流入から護るもので、症状を一時的に改善したり、進行を少し先送りする効果があり、現在でも一定の役割を担っています。新薬が点滴ですが、従来薬は内服や貼付する薬で、脳内のむくみや出血はありません。

Q4 費用はどのくらいですか？

毎月の医療費は、治療薬レケンビが約25万円、そのほか診療料やMRI等の検査料がかかります。おおよそ平均30万円になります。

Q5 誰に相談したらよいのでしょうか？

治療前のPET検査等を行った月もほぼ同様です。健康保険でその1〜3割の負担となり、さらに高額療養費制度や自立支援医療制度等が使える場合は限度額を超える部分(所得により変化)についてはカバーされます。生活保護の場合は医療扶助を受けることができます。

かかりつけ医にまずご相談下さい。当院の場合、かかりつけ医の判断に基づき地域連携部に予約を入れていただきます。診断後、新薬の適用がある場合でもかかりつけ医と共に診ていくことが基本です。必要に応じて自治体やNPO、介護保険のサービスを有効に利用しながら、できるだけ住み慣れた場所で自分らしく生活していただくことを目指しています。

今月の先生

岐阜市民病院 認知症疾患医療センター

犬塚 貴

○専門分野

認知症 脳神経内科

○卒業年、主な職歴

新潟大学 昭和51年卒

○主な資格

日本認知症学会専門医・指導医

日本神経学会専門医・指導医

日本老年病学会専門医・指導医

